

令和4年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

森山町小学校	読む力・話す力向上推進校	教科一般
--------	--------------	------

1 研究の重点と具体的な取組

重点 かかわり合いを通じた読む力・話す力の育成

重点の取組

- ・根拠を明確にして自分の考えをもつことで、読む力を育む。
- ・根拠を示しながら学習用語や考え、解決法等を説明する場を設定して、話す力のかかわり合いの中で育成する。

重点にせまるための具体的な取組

- ・「重点にせまるための具体的な取組例」(資料)を低中高分科会に提示した。低中高で目指すゴールの姿を明確にして、ゴールにせまるための具体的な取組を例の中から選択し、学年でそろえて実践した。

分科会	目指すゴールの姿	ゴール(重点)にたどりつくための具体的な取組
低学年	根拠を指し示して話す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述を指さしながらペアで説明する機会の設定 ・ 「どこからそう思うの？」の問い返して根拠を意識させる ・ 根拠になる叙述に線や囲みを書き込ませる ・ 既習掲示を活用する ・ まとめをペアで伝え合う場の設定 ・ ペアで話し合う機会を増やす
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を示して説明する ・ 質問をする ・ 深まりのみえるふり返りを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「(根拠)から～と考えました」の話型で自分の考えを書いたり話したりするよう指導する ・ 既習を根拠として活用できるよう既習事項を掲示する ・ 交流を多く取り入れ、話型や問い返しを工夫して話をつなげられるようにする ・ 叙述を指し示して話す機会の設定 ・ 根拠をはっきりさせて自分の考えがもてるようにする
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠をもとに自分の考えを書く ・ 根拠を指し示して説明し合い、友達の考えを取り入れて深める ・ 根拠をもとに解釈 ・ 思考する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習を根拠として活用するため既習提示をする ・ 三角ロジックで自分の考えがかけるよう工夫する ・ まとめを書く前にペアで説明し合う場を設ける ・ まとめを読み返して正しい文で書けるようにする ・ 学習のめあてを児童と共有し、ふりかえる機会を設ける ・ 交流で取り入れた友達の考えを付けたすよう指導する ・ つけたい力をはっきりさせて、それに即した交流の形態を工夫する ・ 考えを比べたり関連付けたりして根拠をもとに思考する交流の機会を多く設定する

2 取組の検証

(1) 教員・児童アンケート結果による検証

学校評価アンケート肯定的評価の割合

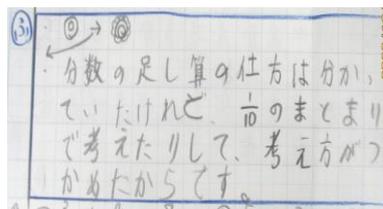
	アンケート項目	後期(前期)
教員	①根拠を明確にして考えを持たせる共通実践に取り組んでいる	100%(100%)
児童	①「わけ」をつけて自分の考えを書けている	92.5%(73.7%)
教員	②根拠を明確にして伝え合う共通実践に取り組んでいる	100%(94.7%)
児童	②根拠を示しながら説明している	88.3%(86.3%)

①「根拠を明確にして自分の考えをもつ」 ②「根拠を明確にして伝え合う」2つの重点に関わる項目において、教員は前期後期ともに肯定的評価が100%に近い数値を示しており、十分に重点を意識して共通実践を行えたといえる。児

児童も両項目とも 85%以上の高い数値を示しており、児童も根拠をもって考え、伝えることができた実感していることがうかがえる。しかし、②の項目においては、教員に比べて児童の数値は-11.7ポイントであり、教員の実践と児童の実感とに差が見られた。

(2) ノートによる児童の変容の見取り

「題意をとらえ「根拠」を示して考えを書くことができたか」を児童のノートで検証した。適正な記述ができている児童は前期 84.6%、後期 87.5%で +2.9ポイントであったが、指標の90%以上は達成できなかった。



3 成果と課題 (○：成果 ▲：課題)

- 叙述や問題文、図などの根拠となる部分に印をつけたことで、根拠をはっきりさせて自分の考えをもつことができた。(読む力・思考力)
- 問題文や叙述を音読させたことで根拠の見落としが減り、題意や内容を読み取る力がついてきた。(読む力)
- 根拠となる叙述や図、式などを指し示しながら説明することができた。(話す力)
- 交流を多く取り入れて説明する機会を増やしたことで、友達の良い考えや説明の仕方を取り入れて自分の考えや説明をよりよくすることができた。(話す力・思考力)
- 話型や交流お手本動画の作成・提示などの工夫により交流で話がつながるようになった。(話す力)
- 高学年では根拠をもとに三角ロジックで考えることが習慣化した。(思考力)
- まとめの前にペアで交流することが習慣化し、課題に正対したまとめが書ける児童が増えた。(話す力・思考力)
- 評価問題の記述式問題の正答率が市の平均を 10 ポイント以上上回った。(読む力・思考力)
- 学期に一度の研究全体会、月に 1 度の学年会で低中高分科会や学年で話し合う場を設定したことで、教員一人一人が児童の実態にふさわしい改善策を考えながら共通実践を揃えて行うことができた。また、学年会のふりかえりと各学年の目標を職員室に掲示したことで、他学年の取組を参考にしながら実践につなげることができた。

かかわり合いの課題

- ▲①根拠をもとに考えをもつこと、根拠を示しながら説明すること、ともに個人差がみられる。
- ▲②交流の良さが児童に実感されていない。
- ▲③聞く力が不十分で学びが深まりにくい様子が見られた。
→▲①②③の改善策…「既習や話型を全クラスそろえて掲示する」「少人数での交流を多く取り入れて児童の発話量と思考する時間を増やす」「つけたい力やねらいに即した必要感ある交流の設定」

深まりの評価の課題

- ▲①「深まり」の見取りが難しい。何をもって深まったのかが明確でない。
- ▲②児童が自分の学びを認識できていない。
→▲①②の改善策…「深まりの姿を明確にする」「最初の自分の考えと話し合い後のまとめを比べて深まりを見える化する」「観点を明確にして 1 時間の学びが見えるふりかえりを書く」

学力向上の課題

- ▲テスト問題文の題意を正確に読み取れないことがある。
→改善策…「授業中やテストの問題文の根拠となる部分を○でかこむ」

資料:重点にせまるための具体的な取組例

根拠をもとに自・説明	交流
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 根拠を指し示して話す→根拠をもとに話すことにつながる <input type="checkbox"/> ノートを見ないで話す→話す力UP <input type="checkbox"/> 既習を確認して、それを根拠に考えたり説明したりする →学びの積み上げ、既習を根拠として思考 <input type="checkbox"/> 既習を根拠として活用できるよう、既習事項を掲示する →学びの積み上げ、既習を根拠として思考 <input type="checkbox"/> 新しく学んだ学習用語や解法を説明する→話す力UP <input type="checkbox"/> まとめを書く前にペアで説明しあう →話す力UP、友達の質問やアドバイスを受けて学びを確かめられる、分かりやすいまとめが書ける <input type="checkbox"/> まとめを書く前に課題を音読して確認し、課題に即したまとめを書けるようにする →問題を読み取り正しく解答する読む力につながる <input type="checkbox"/> 書いたまとめや文を必ず読み返し、自分で正しくなおすことができるようにする→正しく表現する力UP <input type="checkbox"/> 学習のめあて(研究の重点)を児童目線になおして子ども達と共有し、ふりかえる→学びの見通しを持ってゴールに向かえる、△を次のめあてにしてレベルアップできる <input type="checkbox"/> 学習のめあてについての観点を示しそれに沿ったふりかえりを書く →学びのPDCA確立。めあてに向かって向上できる <input type="checkbox"/> 説明の話型を書き残して掲示し、活用する→話す力UP <input type="checkbox"/> 根拠をみつけれない子には友達に聞いて見つける場を設定する →かかわり合いの中で?が!になる深まり 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 付けたい力やねらい(ゴール)をはっきりさせて、それに即した交流の形態や入れどころを考える →必要感のある交流で学びが深まる <input type="checkbox"/> 交流のめあてを児童と共有して、ふりかえる機会を設ける →児童が自己評価して△を改善していける <input type="checkbox"/> ペアやグループ等少人数の交流を多く取り入れて児童の発話量を増やす →話す力UP、かかわり合いを通して学びの深まり <input type="checkbox"/> 交流で取り入れた友達の考えに反応をつける →学びの深まりや変容を可視化できる <input type="checkbox"/> 説明したり友達と考えを比べたり関連連付けたりして根拠をもとに思考する交流の機会を多く設ける →かかわり合いで学びを深められる <input type="checkbox"/> 交流や説明のモデルを示す→学びの見通し <input type="checkbox"/> 「わかりました」を使わない→話がつながる <input type="checkbox"/> 話型や司会原稿など工夫して話をつなげる
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 問題文を文章で提示(算)、子どもたちの手元に全文を(国) <input type="checkbox"/> 根拠を○で囲む <input type="checkbox"/> 問題文を音読しながら根拠に印 <input type="checkbox"/> 「○ページの□行目を見て下さい」その部分をみんなで音読 <input type="checkbox"/> 先生といっしょにまとめを書いたり言ったり、穴埋め文で書く <input type="checkbox"/> 「～と思います。わけは…」考えの後にわけをつけて自を書いたり言ったりする <input type="checkbox"/> 「(根拠)と書いてあるので、…と考えました」など根拠をつけて自を書いたり話したりする <input type="checkbox"/> 「(根拠)から～が分かります。だから…(解釈)と考えました」など三角ロジックで自を書いたり話したりする 	

ゴールの姿や理想のまとめを明確にして、それに即した課題・交流・活動を設定する

→付けたい力にせまれる